



札幌市 幼稚園



江別市(道央) 小4



札幌市 小6



釧路市(道東北) 小2



登別市(道南) 中3

もくじ

- 第31回教育美術展奨励賞作品 ……1<表紙>
- 北海道造形教育連盟委員長挨拶 ……2
- 研究の方向、ネットワーク部会の活動 ……3
- 第55回全道造形教育研究大会
函館大会のご案内 ……4~5
- 地区サークル・NOW(近況だより) ……6~7
- 第32回教育美術展に向けて ……8



北海道
造形教育
連盟報

No.120 2005.7.20発行

発行 北海道造形教育連盟

委員長 今 裕子

事務局 札幌市立前田北小学校 菅原 清貴
〒006-0820

札幌市手稲区前田10条18丁目4-1
TEL 684-0123・FAX 684-3497



造形活動を通して育むもの

造形教育連盟55年目－2005年の歩き方

北海道造形教育連盟

委員長 今 裕子

(札幌市立澄川西小学校 校長)

はじめに－「虹色の造形」

55年の歴史をもつ造形教育連盟の17年度地区委員総会は4月23日全道各地区からたくさんの会員、地区の代表の方の出席により開催されました。前委員長富田泰先生の後を引き継ぎ、その任に就くことになりました。これまで連盟の歩とともに学ばせていただいた多くのことを宝とし、連盟の研究の進展に努力したいと思います。

さて5年前、連盟50周年記念事業にかかわる機会をいただき、また、その事業の一つに50周年記念誌「虹色の造形」の編纂があり、造形教育活動の歴史をつくられた諸先輩の方々、そして各大会の記録を地区の皆様のご協力をいただきまとめることができました。

編集にあたり、大変心に残ったことのひとつは「連盟50年をふりかえる」という座談会を開いたことです。故高橋栄吉先生を始め、本道の造形教育を支え育ててくださった先輩の先生方16名が一同に会し、造形教育にかける熱い思いや実践が湧き出るように語られました。その場に居合わせていたことは、大変幸運であるとともに、貴重な体験をさせていただきました。先輩の諸先生のお話を伺い、連盟の歩をしっかりと記録に残すことが編集者の責務と思い、胸が高鳴ったことが今でも忘れられません。

北からはじまる造形の未来

2001年「第54回全国造形教育研究大会・北海道大会」が開催されたことは記憶に新しいことです。21世紀に発信する「函館大会」に続き、21世紀の扉を開く「札幌大会」が全国大会と重なり、まさに「北からはじまる造形の未来」が開いたのです。その後、開催地は、帯広・十勝、空知、昨年の旭川、そして今年は函館と道内の連盟の基礎を築いてきたそれぞれの地区で開催され、地域の特性を生かし、図工・美術のあるべき姿を追求し、その意義を謳い、確認され連盟の新しい歴史が各地より発信され、刻まれてきました。

今年の函館大会では地域空間に目を向けた豊かな造形活動への挑戦に期待し、造形教育の果たす意義を改めて問い、共に研究を深め合いたいと思います。

横のつながり－全道ネットワークの充実

さて、今年度は地区の方々がより多く集まる機会を生かし、地区委員総会の開催に合わせて、総会当日に「ネットワーク会議」を設けてみました。平成5年旭川大会で話し合われ誕生となった「全道ネットワーク会議」の活動は時を重ねましたが、各支部の研究を交流する機会が年1回の大会時にとどまりがちだった状況を何とか切り拓いていくことはできないかと声上がり、実現したものです。

今回のネットワーク会議では「研究・実践の交流のあり方」「北海道共通題材の開発を試みる」「連盟ホームページの充実を」など各地区の横のつながりをもつための話し合いがされました。

これまで十分な話し合いの時間を持つことが難しく課題もありましたが、多数の参加をいただいたことにより、新たなネットワークの道が開かれてきた事を感じることができました。さらに、今年の函館大会から分科会研究協議の時間帯に「ネットワーク会議」を位置づけさせていただくことになりました。このことにより、会議の時間を保障するとともに全道のネットワーク担当者はもちろん、図工・美術にかかわる多くの関係者が集まり、造形教育に携わる仲間がより「つながり・ひろがり・ふかまる」ことができるものと期待されます。

発信し続ける造形教育を

子どもの姿が見える造形教育、好奇心に満ちた眼差し、表現することで輝く子どもたち、そんな姿と向き合い、造形活動の価値や可能性を見出し、表現することの素晴らしさを今年も共有しましょう。そして子どもにとって『この時間が魅力的で大切に思える時間』となる造形教育をさらに発信しましょう。

17年度 役員・本部事務局員の紹介

○委員長 今 裕子(札幌市立澄川西小長)
 ○副委員長 藤川 潔(函館市立日吉が丘小長)
 ○副委員長 大井 誠一郎(別海町立上西春別中長)
 ○副委員長 桑田 正博(江別市立角山小中長)
 ○副委員長 宝輪 勝己(釧路市立鳥取小長)
 ○副委員長 坂野 潤治(旭川市立北門中長)
 ○副委員長 寺嶋 文憲(札幌市立東米里小中長)

○監査 河原 潤(旭川市立永山南中)
 ○監査 滝本 伸幸(函館市立日吉が丘小)
 ○事務局長 菅原 清貴(札幌市立前田北小長)
 ○会計部長 益村 豊(札幌市立菊水小長)
 ○庶務部長 筋内 浩之(札幌市立真駒内曙小)
 ○研究部長 川島 正夫(札幌市立幌南小)
 ○事業部長 福島 由紀子(札幌市立澄川西小)
 ○広報部長 東 尚典(札幌市立大谷地東小)



状況との出会いと対話から 豊かな人間づくりを

北海道造形教育連盟 本部研究部
研究部長 川島 正夫
(札幌市立幌南小学校)

1. 心豊かに未来に生きる

私たち造形教育連盟は、2000年より研究主題を「心豊かに未来に生きる造形教育」と設定し、研究を重ねてきました。私たちは、函館大会、全国大会（札幌会場）、帯広・十勝大会、空知大会、旭川大会において、＜豊かな自分づくり＞に向かうための造形教育のあり方を考えてきました。その中で、つくりだす喜びを土台としながらも、「感性」を育むことによる「個性」のきらめき（際立ち）の大切さが見えてきました。私たちは、この5年間で、「造形の教育」を通して「造形による教育」（心豊かに生きる人間づくり）を考えてきたのです。

2. 状況との出会いと対話から豊かな人間づくりを

現在、測ることができる学力を中心とした学力低下の問題が論じられています。しかし、一方では、見えないものを具体的なイメージとして提示する“創造力と構想力”が、今ほど求められている時代はないと思います。これらの力は、造形教育で大きく育まれる力であります。私たちは、「対象を含めた状況との相互作用である自己活動を通して、イメージを駆使しながら、造形的な創造活動の喜びや楽しさを味わい、自分を取り巻く世界に対する認識を深め、自分自身を再生し続ける」人間を育てていく必要があるのです。まさしく、私たち連盟が掲げてきた研究主題である、「心豊かに未来に生きる造形教育」こそ、今教育に必要なものなのだと考えます。私た

ちは、造形教育の意義や価値をより積極的に発信していく必要があるのです。

しかしながら、ある意味では教育内容をはっきりさせないで人間教育を語る造形教育は直感的に疑われるのも事実です。私たちは、対象を含めた状況との対話という造形活動を通して、「どんな要素によって、豊かな情操や創造性がどのように育まれるのか？」を明らかにしていく必要があります。造形要素を抽出し、その自立的な豊かさを活用するための「感性」や「感覚」を育成するための一歩進んだ取り組みを発信することで、造形教育の意義を説明していきたいと思ひます。



全道造形教育ネットワークで仲間が、つながる・ひろがる・ふかまる ～ 現場の横のつながりを～

北海道造形教育連盟 ネットワーク部会
代表 湯浅 大吾
(札幌市立東札幌小学校)

1. ネットワーク会議の経過

各地区の現状報告や問題点の交流を目的に、平成6年釧路大会から設けられたネットワーク会議は、平成10年からは、平成13年に行われた全国大会を全道で創りあげるための協議・連絡・調整の場として活用されてきました。

一つの役割を終え、その後のあり方が模索されていた訳ですが、今年度の北海道造形教育連盟の重点の1つとして「ネットワーク会議の充実」が挙げられ、そのあり方が4月の委員総会で話し合われました。

2. 4月のネットワーク会議から

委員総会前に行われたネットワーク会議は、9支部から20名が参加し、話し合いが行われました。その中では、他の分科会の提言とは内容を異にするネットワーク会議だからこそ出来ること、その価値が生きる取り組みをし

て行かなくてはならないことが確認されました。話し合いの中では、各地区の組織作りの問題や美術免許のない教師が美術科の指導をせざるを得ないなどの現状が話題になりました。北海道の造形教育が抱える問題とそれに対する各地区の取り組みなどが交流され、その延長上に全道共通題材の開発や次期研究主題の検討などが見えてくるとよいということが、今後の方向として出されました。

また、運営上解決しなくてはいけない問題はありますが、日常的な交流を活発にするために、掲示板を設けるなどホームページの充実が課題として挙げられました。

函館大会からは、分科会と並行してネットワーク会議が行われることになり、委員総会と合わせると年2回全道の仲間が集います。ネットワーク会議が北海道の造形教育の活性化に寄与するために、まずは皆さん仲良くなりましょう。

第55回 全道造形教育研究大会 函館大会

《大会テーマ めざめる感性（こころ） きらめく個性（かたち）》

研究主題 「地域空間がいざなう造形活動のひろがり」



[会期] 2005. 7. 28 (水)

[会場] <大会会場>

・北海道教育大学附属函館中学校

<函館・渡島・檜山児童生徒美術展会場>

・函館市芸術ホール

<レセプション会場>

・五島軒本店

ご 挨拶

第55回全道造形教育研究大会函館大会

実行委員長 藤 川 潔

第55回全道造形教育研究大会は、光あふれる街、歴史とロマンの街、函館で開催されます。あたたかな道南の地で豊かな自然に育まれた文化の香りを胸一杯に吸い込み、心を、感性を揺さぶりにいらっしやいませんか。

本大会では、全道からご参集される皆様とともに、地域の風土を映し出す子どもたちの「めざめる感性・きらめく個性」を語り合い、美しいものに感動する心や豊かな情操を育む造形活動の在り方を検証し追究する場となるよう努めております。函館での開催は、第50回大会以来五年ぶりですが、この大会を通して、造形教育の価値や意義、素晴らしさを社会に発信する最良の機会でもあることを申し添え、ご案内申し上げます。

研究主題について

大会テーマ

めざめる感性（こころ） きらめく個性（かたち）

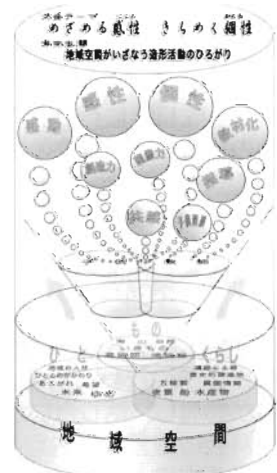
研究主題

「地域空間がいざなう造形活動のひろがり」

今日の変化の大きい社会にあってこそ、豊かな情操を育む造形教育の果たす役割を再認識し、発信していく必要があります。

そのためには、ものの美しさに感動する素直な心呼び覚まし豊かな自分づくりをめざすことが大切です。

子どもたちにとって身近な環境としての地域空間に焦点をあて、そのよさや美しさに気づき、感動するような造形活動を展開することにより、感性を磨き個性を伸ばしたいと考えます。



研究構想図

日

程

8:30	9:00	9:45	10:15	11:00	12:30	13:30	16:00	18:00
受付	公開授業Ⅰ (幼・小)		開会式 全体会	講演	昼食	分科会 研究協議 (ネットワーク会議)	移動	レセプション 閉会式
	9:15	10:05						

公開授業・分科会

校種 学年	分科会名 題材名	授業者	提言者	助言者	司会者
					記録者
幼稚園 3 4 5 才児	ひと・ものからのいざない 「うみだ! うみだ!」	小林恵理子 太田 洋子 中山 利広 (教育大学附属函館幼)	山形 弘枝 (函館市立金堀小) 尾形 旬美 (函館市立はこだて幼)	繪面 和子 (教育大学函館校非常勤講師) 小平 征雄 (教育大学函館校教授)	高橋 喜子 (函館市立北昭和小) 山下 清江 (函館市立日吉幼) 岸本百合子 (函館市立青柳小)
小学校 6 年	ひとからのいざない 「私たち街づくりデザイナー」	西館 純 (函館市立昭和小) 榎山 聡 (教育大学附属函館小)	中谷 文武 (函館市立鍛神小) 新保 理奈 (別海町立別海中央小)	谷口 光伸 (大成町立平田内小教頭) 山口 雅子 (帯広市立東小教諭)	佐郷谷 滋 (鹿部町立鹿部小) 松田 恭子 (教育大学附属函館小) 西 貴子 (函館市立万年橋小)
	ものからのいざない 「光と風のハーモニー」 ～またたく光で夜をかざろう～	水島 賢久 (函館市立駒場小)	小笠原博子 (森町立尾白内小) 福島由紀子 (札幌市立澄川西小)	竹内 良容 (八雲町立大関小校長) 東堂 亮之 (函館市立神山小教頭)	三品 充子 (函館市立港小) 多田 淳 (函館市立旭岡小) 高橋 学 (函館市立神山小)
	くらしからのいざない 「函館・元町・スローアーカイブス」	山田 光 (函館市立旭岡小)	井田 昌之 (大成町立平田内小) 佐伯 晶宣 (江別市立江別第三小)	黒田 雅世 (大野町立島川小校長) 野呂 憲一 (函館市立西小校長)	佐々木善憲 (上磯町立浜分小) 後藤 博子 (函館市立北星小) 久保杉由佳 (函館市立千代田小)
中学校 2 年	ひとからのいざない 「田辺三重松に学ぶ」	齊藤 悦子 (函館市立赤川中)	庄子 展弘 (旭川市立春光台中) 宮城亜紀子 (教育大学附属養護)	佐藤 昌彦 (教育大学函館校助教授) 寺嶋 文憲 (札幌市立東米里小中学校長)	笠松 英治 (函館市立戸倉中) 花岡 康成 (函館市立桐花中) 阿部 真琴 (函館市立桔梗中)
	ものからのいざない 「なまら函館ピーアール大作戦」	佐々木壮一 (函館市立的場中)	後藤 征秀 (知内町立知内中) 鎌田 俊博 (滝川市立江陵中)	大島 道夫 (厚沢部町立館小校長) 川合 薫 (旭川市立桜岡中教頭)	赤坂 巖男 (函館市立本通中) 長峰 詠子 (函館市立潮見中) 米田 康子 (函館市立亀田中)
	くらしからのいざない 「縄文の灯」	九千房政光 (函館市立銭亀沢中)	三浦 薫 (函館東高等学校) 玉造 至 (美幌町立北中)	中村 吉秀 (函館市立北中教頭) 煤賀 克文 (別海町立豊原小校長)	仲井 靖典 (函館市立湯川中) 三谷 龍司 (函館市立北中) 雷尾 拓 (教育大学附属函館中)

「根室ならではの实技研修」

根室造形教育連盟 大井 誠一郎
(別海町立上西春別中学校)

前年度、当連盟における実技研の一つとして、根室海峡を臨む野付湾の前浜にて収集した大小200点からなる素材群(流木・石・貝殻等)を生かした「流木を使って」という講習会が開かれました。最近の小学校図工の教科書では、低・中・高において当該関連教材が案外幅広く、多様に網羅されていることをうけて、サークル員からは「その領域での実技にぜひ取り組んでみたい。」との声が多く、実現する運びとなりました。

当日は、それぞれがしっかりと台座を礎に、思いの鳥や動物、あるいは抽象モニュメントなど、様々な流木パーツを中心に創意工夫を凝らしながら、組み合わせるためにつないたり留めたり、切ったりしながら立体的につくる造形活動の展開が見られました。

その結果、参加者の中からいち早く授業に取り入れ実践化を試みたサークル員も出て、まさしく根室の大自然ならではの造形ムードを醸し出す実践を見出す良い機会となり、地域の素材のよさをあらためて見直すきっかけともなりました。

本年度は、全道教職員美術展の移動展が当管内で開催される予定であり、学校関係にとどまらず、広く地域・社会に向けて、造形活動の素晴らしさを強くアピールしていきたいと考えております。

「檜山造形教育研究会の紹介」

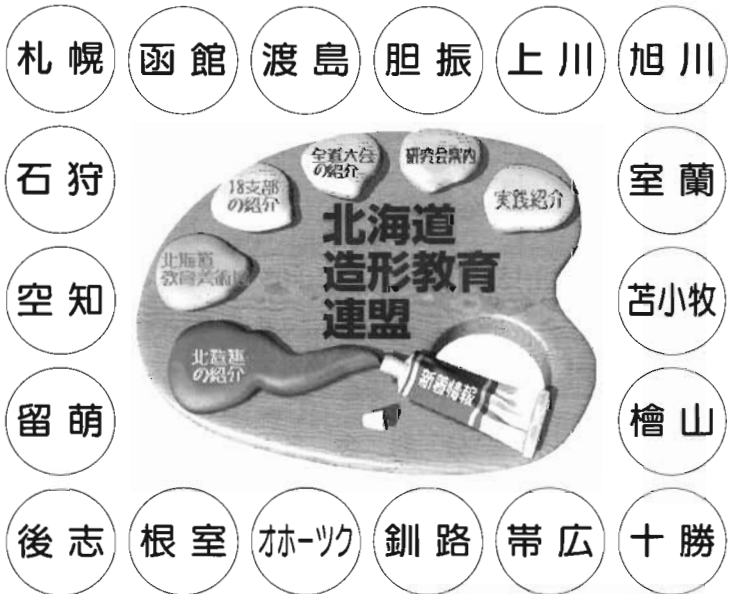
檜山造形教育研究会事務局長 谷口 光伸
(大成町立平田内小学校)

檜山造形教育研究会は、今年度、田中俊一会長(江差町立江差中学校)をはじめ、会員16名の少数精鋭でスタートしました。主な活動として、管内美術・図工担当教員の技術向上を図るため、講師を招いて講習会を実施したり、檜山管内児童生徒美術展を開催したりしております。

特に、管内児童生徒美術展は、昭和46年から檜山支庁、檜山教育局、各町教育委員会等の支援・協力を得て毎年開催し、今年で35回目を迎えます。例年、管内小中学校から400点を超える作品の応募があり、管内児童・生徒の学習(絵画・版画・デザイン・ポスター)における貴重な作品発表の機会となっております。

昨年度は乙部町にて開催し、檜山管内各校より504点(過去最多数)の作品が寄せられ、優秀賞25点、奨励賞22点、団体賞2校(熊石町立雲石小学校、熊石町立熊石第一中学校)を表彰しました。

また、近年は開催町近隣の教育研究会図工美術サークルへの呼び掛けも行い、造形研会員と共に審査会へ参加することで、教師の指導技術の向上や鑑賞能力を養う研修の場としても位置付けてきております。



「実践に生きる空美の研修」

空知美術教育研究会事務局 中澤 孝仁
(岩見沢市立第二小学校)

今回で42回目を迎える「全空知子どもの作品を語る会」。今年は11月に新十津川町立新十津川小学校で開催することが決定しました。

「語る会」とは、車座になって子どもの作品を囲み、互いの悩みを語り、よさを発見し、それを明日の実践に活かす座談会です。ベテランも新卒もOBも、気軽な話し合いの中で子どもを語り合い、指導を語り合い、教育を語り合う「自主的な研究実践の積み重ね」の場として、42年間続けてきました。ピックアップされた数点の作品ではなく、指導したクラス全員の作品を持ち寄ることにより、それらの作品を見たり、お互いの意見交流の中から何かをつかみ取ったりして、現場での実践に活かす。それが、私たちがこれまで続けてきた「語る会」であり、空知美術教育研究会のスタンスを一番顕著に表している大会です。

その他にも毎年「スケッチ旅行」「実技講習会(昨年は即実践可能な版画演習)」「会員作品展」「新春セミナー」「裸婦デッサン会」「会報の年5回発行」「メーリングリストでの情報交換」など、年間を通じて『実践に生きる・会員自身の資質向上を図る』活動を行っています。

「どう教えてよかわからない」「おもしろい実践のネタは?」「図工や美術の存在価値とは?」「この実践、皆さんはどう思う?」…。

もしもそんな悩みがあれば、主体的かつ自由な雰囲気のある『くうび(空美)』の研修会に参加してみてください。何か得るものがあるはずですよ。

地区サークル・NOW

地区サークル近況だより

「地区サークル・NOW」は115号から始まった全道17地区ブロック・サークルからの「近況だより」のコーナーです。

過去5回の発行を通して、地区の特色を生かした活動や伝統ある取り組みの様子などについて紹介したり、地区会員からの生の声を発信したりしてきました。

今後も、各地区サークルならではの活動や実践の交流の場として大切にしていきたいと考えておりますので、各地区からも、紹介したい活動や授業実践などがありましたら、ぜひご一報ください。

「旭川大会、その後」

旭川市教育研究会図工美術部会 **森 清行**
(旭川市立光陽中学校)

気候の変化なのでしょう。寒い春を終え、やっと初夏の陽気を迎えています。

昨年の大会から1年が経とうとしています。盛会裡に終えることができたのも、連盟の皆様はもとより、全道各地から参加していただいた方々、関係各位の支えがあったことと改めて感謝いたします。

造形活動における身体性に目を向け、現象学的な捉え直しの試みこそ「生(なま)の造形活動」が問おうとした主題でした。だから各自の授業づくりへの問いがあり、可能性への提起がありました。生(せい)の全体性から造形教育の意味を捉えるのではなく、刻々における身体のふるまいに視点を置くからこそ、「生(なま)」という表現の核心があります。したがって、「生(なま)」とは身体を通して起因する外的・内的現象の全てであるといえます。

果たして、そのどれほどのことを示唆することができたのか疑問ですが、「どのような作品をつくるのか」ではなく「どのような作品がつくられていくのか」、それを読み解き続けることが、日々の実践に真摯な肉付けを与えるものと考えます。

それで、今年は「面白い」ということについて、真面目に取り組んでみたいと考えているのです。それには、「面白い」と思う企画や提案に乗ってみる。まずは、一步を踏み出してみることから始めようと思っておりますが、どうでしょう？

「余市町立教育研究会図工美術部会の紹介」

後志教育研究会図工美術部会 **竹生 元**
(余市町立大川小学校)

余市町では、小学校中学校合同の教育研究会が年間6回行われています。図工美術部会では、会員数5名という少ない中ですが、実技講習会、研究授業、小中版画デザイン展の開催という活動を行っています。

昨年度の実技講習は、段ボールの素材を生かした紙工作の実践を検証。廃材をもとに新しい造形をつくり出す作業は楽しく、時間の経過が早く感じられました。また、実際に行うことで、作業の難しさや授業での活用方法などについて検討することができました。

研究授業では、東中学校の宮澤先生が彫塑の授業を公開しました。自分の手をモデルにしたもので、手の特徴を捉えさせるための適切な助言・支援をデッサンのときから行うことで、写実性に富んだ作品を完成させることに成功し、生徒たちの満足度も非常に高いものとなりました。

今後の課題としては、部会員数の減少に伴う活動の精選・充実、教科書の教材検討などがあげられます。図工美術の話ができる貴重な機会をこれからも大切にしていきたいと思っております。

「十勝造形サークルの活動と現状」

十勝造形サークル委員長 **下坂 正之**
(音更町立線南中学校)

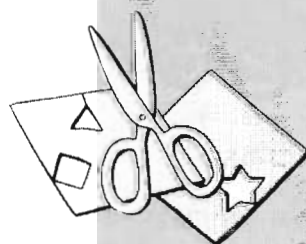
近年、生徒数の減少による学校数の減少、教育課程の改訂による授業時数の削減のあおりを受けて、専科の教諭の人数減少に歯止めが掛からず、会員数が少人数になりサークル活動にも支障をきたす困難さを抱えながらも、頑張っている活動しています。

昨年の活動は、十勝子ども大会の作品審査、展示、撤去など、図工・美術の展示部門の一切を引き受け、精力的に作業を行いました。

また、教職員研修講座の講師選定、協力指導を行ってきました。

管内のサークル合同研究会には、サークル員の協力の下、授業の提供、事後研修なども行い、造形教育の推進役として頑張っております。

会員数は減少の一途を辿り、現在20名を切る状況ですが、図工・美術教科の専門家としての自負をもって、「十勝造形サークルここにあり」と、その存在を一人一人がアピールして頑張っていく意気込みです。



第32回 北海道教育美術展

応募要項概要

正式な要項については後日発送の予定ですが、概要についていち早くお知らせしたいと思います。作品応募に向けて、ご準備をお願いいたします。

応募の対象

- ・保育園、幼稚園、小学校、中学校に在籍する園児及び児童・生徒

応募の規定

- ・絵画、版画、デザインなどの作品とし、学校（園）を窓口として応募する。
- ・大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は、4つ切り大の台紙に貼ること。（中学校については、8つ切り大の台紙も可）
- ・1人1点の出品とする。
- ・作品の裏に応募票を貼る。（応募票はコピーして使用する）
- ・応募総数を学年別出品一覧表にまとめて添付する。
- ・作品は学年ごとに重ねて一つにまとめ、表に「教育美術展作品」と記載する。



審査風景1



審査風景2

絵画・デザインなどで様々な材料を用いた表現が見られますが、展示・保管上、次の規定をお守りください。

- *積み重ねてもつぶれない、かさばらない
- *接着が強固ではがれたりとれたりしない
- *画鋏で展示が可能な重量である

締切 平成17年12月12日(月)まで
期日厳守のこと

送付先 〒005-0002
札幌市南区澄川2条5丁目7-2
札幌市立澄川西小学校
北海道教育美術展係 宛

- ◇主催 北海道造形教育連盟
北海道新聞社
- ◇後援 北海道教育委員会
- ◇協賛 さっぽろ東急百貨店
株式会社 サクラクバス

問い合わせ先

札幌市立月寒小学校

池田 武彦

TEL:011-851-9348

FAX:011-851-2358

◆おことわり◆

4月に行われました17年度地区委員総会の折りには、教育美術展の審査日を12月26日・27日としておりましたが、諸事情により12月27日・28日へと変更になっております。

あ と が き

広報部新体制での初仕事による「第120号」をお届けすることができました。原稿をお寄せくださった皆様をはじめ、今号の発行にお力添えいただいた全ての方々へ心からお礼申し上げます。年に2回の機会ではありますが、全道900余りにのぼる連盟員の、情報発信・交流の場としての役割を重く受け止め、今後も内容の充実に努めていきたいと考えています。どうぞ、全道各地からの「声」をどしどしお寄せください。

<造形教育連盟広報部>中山 龍雄・小林 充裕・土肥 宏充・松本 和彦・富波 修・山室 ゆかり・伊藤 聡美・平井 歩・東 尚典